

2019年度3年次編入学試験「専門試験」「小論文」等の狙い・意図・採点のポイント

学科・専攻	専門試験(芸術学科は小論文)	面接	専門試験作品利用
	狙い・意図	狙い・意図	
日本画		提出作品を重視した。提出作品の制作動機、制作意図を説明してもらい、小論文、志願理由と合わせて総合的に判断した。	-
油画		提出した作品が当該学年に相当する技術力、表現力を持ちえているか。大学編入後のビジョンはあるか。普段どのような意図で制作しているのか。本学油画専攻を選んだ理由が明確かどうか等、総合的に判断して採点を行った。	-
版画		版画専攻面接試験では、以下を質疑のポイントとしている。 ・コミュニケーション: 質疑応答への反応、理解力、伝達能力 ・人間力: 積極性、生活習慣 ・制作: 制作への取り組み、独自の視点、将来性 これらを評価ポイントとして、過去、現在、未来への質問、また作品のプレゼンテーションの双方に於いて総合的に判断する。	-
彫刻			
工芸		なぜ本学の工芸学科を選んだのか、そして学びたいのか。将来の展望等について熱意と説得力のある答えを望む。これまで学んだ専門分野での到達度と、さらに今後の本学での専門授業に対応する力をみるため、これまでの研鑽の蓄積がうかがえるファイルや資料の充実を望む。また、人物から受ける熱意などもあわせて判断する。	-
グラフィックデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 理解力 問題の把握、理解が正しいか 伝達力 問題の意図や状況を正確に表現しているか 発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか 描写力 構図、形、動き、量感などを描写することに必要な技術が優れているか 個性 デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか 3年次に相当する能力を有するか 	<ul style="list-style-type: none"> 編入学志望理由が明確であるか 授業への取り組みの意欲があるか 持参作品による描写力、色彩・構成力の基礎的造形力の評価 	x
プロダクトデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 理解力=問題の把握、理解が適切か 発想力=アイデアが優れているか 独創性=他にないアイデアか 実現力=アイデア具体化方法の知識があるか 表現力=アイデアが伝わる表現か 3年次に相当する能力を有するか 	<ul style="list-style-type: none"> 3年次相当の実技力があるか 本専攻の内容を理解しているか 本専攻への入学意図は明確か 自分の意見を述べられるか 学習意欲が感じられるか 	x
テキスタイルデザイン	テキスタイルデザインを学ぶために必要な色彩感覚を持ち合わせているかと、自分らしさが表現されているかを問うことをねらいとして出題した。また、丁寧な制作で美しく描かれているかも採点のポイントとした。	受験者が本専攻の基礎課程(1.2年次)と同等の教育課程を修得しているか、また、3年次からの授業についていけるかどうかを持参作品によって審査した。さらに、口頭で自分の考えやテキスタイルデザインを学ぶための熱意を明確に説明できるかということも評価の対象とし、採点のポイントとした。	●
環境デザイン	本学科の2年生と同等の基礎的造形力、および基礎的デッサン力があるか。形、空間を把握し、平面上に表現する能力があるか。	大学を変えて学ぶ理由が、はっきりしているか。今までの2年間で学んだものを的確にプレゼンテーションできるか。本学の授業を理解できるだけの専門的な知識が備わっているか。	x
情報デザイン メディア芸術コース		<ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオに基づくプレゼンテーションで、作品のコンセプトや制作過程を自分の言葉で伝えることができるかどうか。 前所属の活動の実績について。 志望する分野に関する専門的な知識や認識がどれだけできているか。 卒業後に、どのような将来ビジョンを持っているのか。 	-
情報デザイン 情報デザインコース		<ul style="list-style-type: none"> 作品が学部2年次終了レベルの品質であるか 作品のプレゼンテーション力、対話・コミュニケーション力は的確か 入学後の具体的な学習・研究イメージがあるか 卒業後、デザインに対するヴィジョンがあるか 	-
芸術	論述の着眼点が出題内容に対して適切であるか、論旨は明確で説得力があるか、卒業論文を書き上げるにふさわしい能力があるかという点が判断基準となる。常識的にまとめあげた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待している。	芸術学科で何を学びたいか、受験生の知的好奇心や学業および芸術への熱意、卒論で何を書きたいか、将来の展望等を質問し判定する。	x
統合デザイン	<ul style="list-style-type: none"> 理解力=問題の把握・理解が正しいか 観察力=日常の気付きからアイデアを導きだしているか 発想力=イメージを具体化するアイデアが優れているか 描写力=構図、形、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか 視点=事象を捉える感覚とその表現が適正で感性に優れているか 	<ul style="list-style-type: none"> 入学志望理由が明確であるか 本学科の内容を理解しているか 授業に必要な対話力・語学力はあるか 授業への取り組みの意欲があるか 	x
演劇舞踊デザイン 演劇舞踊コース			
演劇舞踊デザイン 劇場美術デザインコース	鉛筆デッサンは、4種類の質感の異なったモチーフを与えた。それらを想定で組み上げることによって空間構成力を・モチーフの異なった質感を描き分ける観察力と表現力を・光をとらえて陰影を劇的に描写できる感性があるかを探る。舞台美術はプロセミアムを、映像美術はフレーム画角を意識して美術設計を行う。日頃からそのような感覚で空間と対象を見る目を持つことが重要である。また、常に光を意識し独創的でドラマティックな発想をすることが必要である。想定デッサンとなっているのは、モチーフを自由に構成し、情景をも創造してほしいということである。3年次編入に相当するデッサン力を有しているかも判断する。	<ul style="list-style-type: none"> 学科の特色を理解しているか 協調性があるか 授業への熱意と適応力があるか 作品の説明が的確であるか また魅力ある作品であるか 編入学志望理由と目的が明確か 3年次相当の実技力と専門能力を有するか ゼミ授業への希望が明確か 3年次編入の作品面接では、基礎スキルや専門能力のほか熱意も判断基準となる 	●

全学科共通小論文

- 1) 題:「美術の革新性」という題で、あなたの専攻領域をふまえて800字程度の文章を書きなさい。
- 2) 美術の社会における役割について、どのように考えているかを問い、今後の学習の目標をどこに置いているかを判断した。
- 3) 文章が論理的であるか否か。また、具体的な事例をあげて述べられているかという点については加算材料とし、既学習内容を踏まえ、本学での勉学意欲をどのように抱いているかについても考慮した。